



毎月25日
月1回発行
定価 100円

発行所
新みやぎ社
日本共産党
宮城県委員会
機関紙発行所
仙台市青葉区一番町
一丁目12-25
電話(022)267-1511
http://www.jpc-miyagi.net/

日本共産党各地区委員会

仙山西地区委員会
(022) 225-2920
仙台東地区委員会
(022) 253-7471
塩釜地区委員会
(022) 364-3222
東部地区委員会
(0225) 22-6335
仙南地区委員会
(0223) 22-4036
北部地区委員会
(0229) 22-1252

新型コロナウイルス 「このままでは倒産・廃業だ」「公的支援を」 暮らし・経済に大打撃 切実な要望相次ぐ

日本共産党新型コロナウイルス対策本部 ふなやま本部長を先頭に調査に全力

いま世界的に大きな問題となっている新型コロナウイルス感染の拡大では、宮城県内でも経済、医療、福祉、暮らしに深刻な影響が出ています。日本共産党宮城県委員会は3月3日、ふなやま由美衆院比例東北ブロック候補を本部長として新型コロナウイルス対策本部を立ち上げ、各地の党議員団とともに連日調査活動を行っています。

▼病院・医療機関では
ある公立病院では「マスク不足が深刻。ある病院ではマスクがなくなつたと聞いたので、自治体病院間で在庫を融通しあっている。この先どうなるのか先が見通せない」と言います。また、別の病院でも「医師会からマスクの提供があったが、数は不十分。手術室などその都度交換が必要な病院では今後の治療や事業継続に影響する」と

▼飲食店や居酒屋では
「飲食店との取引が2〜3割減。あと一週間ぐらいで休業する店が出始めているのではないかと。さらに長引けば廃業に追い込まれる店も出かねない」と語る。水産卸売協同組合の菅原邦昭事務局長は「廃業を防ぐためには、仕入れに対する「支払い猶予」や「支払い免除」が必要だと言います。

▼鮮魚卸業者や居酒屋では
飲食店や居酒屋に鮮魚を卸している遠藤和久さんは「本当なら歓迎迎会を書き入れ時なのに、人が集まる駅周辺の居酒屋などでは宴会がほとんどキャンセルになってい

る」「いつものなら一日80人ほど客が入る居酒屋で8人しか来ない日もあるなど、売上げが8割減の店も」「震災の時はまだ助けてくれる人がいたが今回はちがう」「どの店でも出るのだから息ばかりかかわる」と危機感を示しました。

▼写真店では
宮城野区で保育・幼稚園や小学校の行事の写真撮影・販売している「北日本カラー写真」の小池郁雄社長は「3月末までに6〜7割がキャンセルになっている」「数百万円の収入が減ることを考えると怖い。夜も眠れない」と訴え、ピアノ発表会といった行事や卒業写真の注文などがなくなれ

ば「3月は通常の売り上げの半分に落ち込むのではないかと懸念。行政の支援策について「融資だと返さなくてはならない」と表情を曇らせました。

▼秋保・作並のホテルでは
秋保温泉のリゾートホテルの総支配人は、「3月以降のキャンセルが7日時点で約1500人、約1500万円の損失」「卒業旅行、歓迎会、入社式関連、企業セミナー、学会などが7割減にもなっている」と訴え、「軒並みキャンセルで、ほぼ休業状態。インバウンドは(外国人訪日旅行)は全滅」「ホテルは関連業種のすそ野が広く影響が大きい」「今は震災、消費税増税、コロナの3重苦だ」「4月以降も先が見えない不安がある」と述べ、従業員への賃金保障や無利子融資、借入金

の返済猶予、融資にとどまらない直接支援などを求めました。

作並温泉の宿泊施設の社長も「3月の収益は前年比5割減。4月〜5月は8割ダウン」と述べ、「宿泊券の買い取りなど、思い切った直接支援策がないと、温泉地から旅館がなくなってしまう」と訴えています。

▼野菜農家は
米・野菜農家の嶺岸若夫さんは「休校の影響で太白区の3つの小学校の学校給食用に納入する食

材は廃棄処分せざるを得なかった」「一方で市場に出荷する200グラム通常60〜80円のホウレンソウが20円にまで暴落している」と訴え、「農協共済に加入しない生産者も多い」として、補填や営農資金への公的支援を求めました。

▼畜産農家は
川崎町で牛80頭を肥育する畜産農家は「枝肉の価格がキロ単価300円から400円の暴落。子



6日 鮮魚卸業者から話を聞く船山氏ら



12日 川崎町の畜産農家を調査する船山氏、高橋町議ら



16日 自交総連で懇談する船山氏、嵯峨、高見両市議ら

コロナ対策で共産党 県に緊急要望書

「県民の悲痛な声受けとめ緊急支援を」



13日 佐野副知事に要望する党県議団と船山氏ら

日本共産党宮城県委員会と党県議団は13日、村井嘉浩知事に対し、新型コロナウイルス対策本部長のふなやま由美衆院比例東北ブロック候補と三浦一敏県議団長らが、佐野好昭副知事に要望書を手渡しました。

ふなやま候補は、県内を回り、現場の実態と声を紹介し、「新型コロナウイルスの感染拡大で県民の多くが不安を感じ、地域経済への大打撃になっていきます」と話し、要望の趣旨を説明しました。

要望は、①医療機関・介護施設へのマスク、ガウン、消毒薬の供給や検査体制の整備、誰でも受診できるように国民健康保険の資格証明書を短期証に切り替えること②学校の一斉休校で子どもたちの居場所づくりと学ぶ権利を保障すること③雇用問題で、中小企業・介護サービス事業への雇用調整助成金の活用、徹底、便乗解雇の防止④観光・宿泊業、中小業者、給食食材提供業者・生産者、フリーランスへの支援⑤消費税5%減税を国に求めることなどです。

副知事は、「要望を受け止め、県の対策の参考にさせていただきます」と答えました。

「国の責任で抜本対策を」ふなやま候補ら街頭で宣伝



9日街頭で訴える中島県委員長、船山候補ら

党宮城県委員会は9日、ふなやま由美衆院比例東北ブロック候補を先頭に、新型コロナウイルス問題で国に抜本的対策強化を求めました。

保健師でもあったふなやま候補は、この問題は「何より科学的な知見にもなっていない」「一方で市場に出荷する200グラム通常60〜80円のホウレンソウが20円にまで暴落している」と訴え、「農協共済に加入しない生産者も多い」として、補填や営農資金への公的支援を求めました。

牛価格も10万円から20万円下がって、飼料代などの経費はともまかなえない」「価格が下がれば、この先続けられない畜産農家も出てしまう」と訴え、「農家は借金で体力すら残っていない。BSE問題の時に政府が行った1頭ごとに生産原価を補う保障制度のような直接支援策をぜひ行ってほしい」と強く求めました。

(裏面につづく)

(表面からつづく)

▼小・中学校では

ある小学校の校長は「急な一斉休校の方針が出され、現場の職員は夜遅くまで対応に追われた」「6年生が友だちと残りの時間を紡ぐことができず残念」と述べ、「家の中で過ごすのをえない児童の健康が心配。登校日をつくり児童の状況を把握したい」と語りました。

またある中学校の教頭は、「3年生には、突然の休校で2月末に最後の授業になり、悲しい思いをさせた。3月4日に高校入試を控え、大変な精神状態だったと思う」「卒業式は時間短縮で行うが、思い出に残る式になるよう先生方が頑張っている」と語りました。

▼放課後児童クラブでは

仙台市内のある児童クラブの指導員は「狭い空間に午前中から児童を預かることになり、感染を拡大させないかと神経をすり減らしている。手洗いを徹底しているが、どうしても体が密着する」「保護者は何とか休みをとって対応しているようだ」「児童クラブの指導員の体制はギリギリ。子育て中の職員もおり、なかなか休みをとれないのが悩み」と訴えました。

東日本大震災から9年

高橋千鶴子衆院議員

石巻へ

日本共産党の高橋千鶴子衆院議員は11日、東日本大震災で甚大な被害を受けた石巻市を訪れ、市役所で復興状況などを聞き取り、被災した小学校で献花しました。三浦一敏県議団長が案内しました。

要な問題がまだまだあります。国の支援をせひよろしく願います」と話しました。高橋議員は「土地調査の状況や災害公営住宅

被災者の生活の状況を現場のみなさんからお聞きし、国会の審議に生かしてお返しできるよう頑張ります」と応じました。懇談後、児童74人と教

職員10人が津波の犠牲となった石巻市立大川小学校の跡地で献花し、手を合わせて犠牲者をしのびました。

女川原発

「県民投票条例案」討論せず否決

3日の県議会で、超党派4会派の県議が提出した女川原発再稼働の是非を問う県民投票条例案をめぐり、自民会派などが提案理由の説明や質疑討論を一切せず採決強行、否決する暴挙に出ました。

動きを聞きつけた市民約100人が議会の開会前に集合。党県議団も参加する「脱原発をめざす県議の会」が呼びかけた集会では、言論封殺に怒

りが渦巻きました。同会の佐々木功悦会長は、2日の議会運営委員会で自民党会派から提案理由の説明、質疑、委員

1年前、11万人余の署名を集めて県民投票条例を求めた市民団体代表の名を挙げて「私たちがあきらめません。県民の意思を表明する場をつくるためにがんばる」と語りました。

復興政策課の岡浩課長は「復興機関10年でハードの復興の見込みは立ってききましたが、復興期間後もコミュニティの形成など、息の長い対応が必

員勤務で休みが取りにくい状況」「休校で障害のある児童生徒の生活リズムや体調への影響、学習の遅れが心配だ」「何よりも子どもの教育権が侵害される事態。長期化する心が心配だ」と語っています。

障害児の放課後預かりや高齢者デイサービスを行う施設「グループホーム」では、中村祥子理事は、学校の長期休暇と同じ体制で朝から事業所を開かなければならない一方で、外出自粛や保護者が仕事を休むことによる利用控えも進んでいると説明。「このままいくと、各地で福祉事業者の倒産が続出する。感染が収束しても社会資源である福

社事業所がつぶれてしまう。検査体制の充実と、事業者が続けられる対策をお願いしたい」と訴えました。

党会議

横田有史さんの退任あいさつ(全文)

2月9日

2月9日の第85回宮城県議会、長年にわたり県委員会副委員長として活躍された横田有史さんが退任しました。当日の退任あいさつ全文を紹介します。

党の会合で「退任の挨拶」というのは、余り聞いたことがないので、横田有史さん、党員として57年間、よく頑張ってきたので、明日からはしっかり遊んで暮らせよ」という意味であれば、喜んで受けたいと思います。他に退任される方々の思いも込めて、述べたいと思います。

1年留年して卒業し、1968年に連合会から単一化した約1500名の東北大職組の書記として就職。多くの皆さんの指導を受けながら、書記・副委員長などを務め、当時の定員外職員(非常勤職員)全員の定員化を勝ち取るなどの闘いを展開しました。又、宮城県

東京の日教組大学部本部への移行が決まろうとしていた矢先に、宮野肥佐子市議の病気で急きよ、仙台市議への話に。そして市会議員の間は太白区地域支部・ブロックの指導責任も経験。仙台市議2期目には、村上敏子県議の病気でまたぞろ急選、県会議員選立候補へ。1期目は栗石さんの後を継いでいけば安心と思っていたところが、たった一人で大海のなかへ。2期目は虎川・青野さんと3名、3期目は青野さんと2人、4期目は遠藤さんと2人。そして間もなく改選の選挙という2011年3月11日に東日本大震災。遠藤さんと二人で文字どおり、全

4名の重厚な県議団がその存在感を示す中、今まで以上に全県各市町村の様々な問題や集いにかける参画するようになった4年間を終え、県議5期70歳を超えたことを理由に引退。なんとこの4年前の選挙で8名の県議団に。その活動を見守りたこともあり、県副委員長の任についてこの4年間を過ごしてきました。この間「市民と野党の共闘」のうねりが広がる中で、仙台市長選・参議院選や宮城県議選などでの連携を築いて行くための環境づくりに、いくらかの役割も果たせたかなと思っています。殊に学生時代には、対立関係にあった「ヘルメットグループ」の方々の新たな連携・共闘が進展していることに、50年の歴史の重みを痛感せざるを得ません。

でも結局お前は、57年間何をやってきたのかと問われる時に、今思い出しているのは、県議をやめた直後の4年前に、県議団事務局の斎藤晃さんからもらった一枚のメモ。議会事務局のデーターをクリックするとすぐに出るのだそうですが、平成元年から4年前の平成27年までの27年間の会議録における、各県議の公式発言回数のヒット数の一覧表。例えば、この27年間は、全て県議であった相沢光哉議員は5489回で12位。それに対し、まだ1期4年の三浦一敏県議は4197回の17位。同じく天下みゆき県議は5686回の11位。2期8年の遠藤いく子県議が11893回の第2位。そして、1位は私、5期20年横田有史の27361回。斎藤さんは「日本共産党の抜群の発言力! それにしても、横田さんの2万7千回は不滅の記録かもですね!」と付記してくれました。数字的にもこれだけ頑張ったんだよと自慢しながら、今後も遊ばせろけることなく、1人の日本共産党員として可能な努力を尽くしていきたいと思えます。

党創立100周年に向かっている。一人一人の力を可能な限り発揮して、「高度に発達した資本主義における革命」を実現するため、一緒に頑張ります。色々とお世話になりました。本当に有難うございました。

当時の東北大は、今日の会場の1段に座っている名誉役員の方々、本田さん・岡村さん・栗石さん・芳賀さん・そして「鬼の寺島さん」等の指導の下に、1000名の民青・数百名の党員を養成。その力で、1945年には、宮教大設立の教育学部教員養成課程の分離、その敷地のため農学部が青葉山に移転が強引

に進められ、全学的な闘いに大きく発展。佐藤栄治文学部・藪田佳則教育学部・両自治会委員長2名の逮捕、岩村智文自治会連合委員長の全国指名手配を契機に「昭和40年9月闘争」が展され、9月15日からの全学ストライキでは、片平ロータリーに5000名の学生が結集。当時の石巻学長を退陣に追い込む。自治会連合の書記長であった私は、弁護団の青木弁護士らから、「お前は逮捕されてもいいから前面に出ろ」と命じられて、その戦いの先頭に立たされた。

「連帯・交流を進める仙台労働運動」運動などを推進。東北大記念講堂での「松田聖子コンサート」を開催するなど、型破りの労働運動も展開されました。

月後の6月には「東日本大災害復旧・復興みやぎ県民センター」を立ち上げる事が出来ました。【その事務局長をやった金田基さんが昨年、遠藤さんの後の県議に。】10月に延期された県議選では石巻(三浦)・塩釜(天下)でも議席を得、4名の県議団へ。この9か月の間の、疾走については2日おき程度の私のブログを1冊の本にしてお配りしましたので、お持ちの方も多いいと思います。

でも結局お前は、57年間何をやってきたのかと問われる時に、今思い出しているのは、県議をやめた直後の4年前に、県議団事務局の斎藤晃さんからもらった一枚のメモ。議会事務局のデーターをクリックするとすぐに出るのだそうですが、平成元年から4年前の平成27年までの27年間の会議録における、各県議の公式発言回数のヒット数の一覧表。例えば、この27年間は、全て県議であった相沢光哉議員は5489回で12位。それに対し、まだ1期4年の三浦一敏県議は4197回の17位。同じく天下みゆき県議は5686回の11位。2期8年の遠藤いく子県議が11893回の第2位。そして、1位は私、5期20年横田有史の27361回。斎藤さんは「日本共産党の抜群の発言力! それにしても、横田さんの2万7千回は不滅の記録かもですね!」と付記してくれました。数字的にもこれだけ頑張ったんだよと自慢しながら、今後も遊ばせろけることなく、1人の日本共産党員として可能な努力を尽くしていきたいと思えます。

党創立100周年に向かっている。一人一人の力を可能な限り発揮して、「高度に発達した資本主義における革命」を実現するため、一緒に頑張ります。色々とお世話になりました。本当に有難うございました。